

## オンデマンド印刷機+感圧紙安定走行キットによる販路拡大事例

# 富士ゼロックス機と感圧紙安定走行キットを活用して独自のビジネスモデルを構築 1冊からの名入れ伝票印刷ニーズに応え ニッチのトップを目指す

印刷ニーズが多様化する中、伝票印刷の通販を手掛ける株式会社和歌山印刷所では、2020年4月より1冊からの名入れ伝票印刷通販「FROMワン」を開始しました。40番のノンカーボン紙を用いた極小ロットでの商材展開は他に例がなく、問い合わせも増え始めるなど需要が広がっています。このビジネスモデルを実現したのが、「感圧紙安定走行キット」を搭載の富士ゼロックス「Versant™3100Press」です。「伝票1冊からのニーズ」に着目し、新たなサービスを展開する同社でお話をうかがいました。



富士ゼロックス「Versant™3100Press」で1冊からの名入れ伝票印刷通販「FROMワン」を展開

### エム・ビー・エスの紹介で 感圧紙安定走行キット搭載の 「Versant™3100Press」を導入

和歌山印刷所は、データ制作から納品までの一貫体制を完備し、事務用伝票をはじめ、各種パンフレット、看板まで幅広い分野の印刷物を制作しています。2013年には、伝票印刷に特化した通販サイト「伝票王」を立ち上げ、全国展開を始めました。

「伝票は単価の低い商品ですがニーズは安定しています。そこで販路を拡大するため通販を採用しました。そうして全国展開するうちに、50枚綴の名入り領収証を1冊だけ欲しいというお客様の声が入りました」

そうお話しくださったのは、同社の百合川 社専務取締役です。

「たとえば不動産業界では、取り引き件数は少なくても扱う金額は高額です。その数千万円以上の取り引きで、社印だけ押した市販の領収証では釣り合いが取れませんよね。そこに着目し、名入れ伝票が1冊から購入できる通販「FROMワン」を企画したのです」



「感圧紙は発色が良いので、4~5枚など複写枚数の多い伝票には最適です」と百合川 社専務取締役

極小ロットでの名入れ印刷はオフセットでは対応できないため、必然的にオンデマンド印刷になります。しかし、複写枚数が多い伝票に使用する40番の極めて薄いノンカーボン紙では、シワ、斜行、見当ズレなどの問題がありました。

「複数のメーカーに相談して試し刷りもしましたが、いい結果は得られませんでした。そんな折、エム・ビー・エスさんが富士ゼロックスの感圧紙安定走行キットの情報をアナウンスしてくださったのです」

感圧紙安定走行キットは、富士ゼロックスがお客さまのお困りごとに対応する個別ソリューションを提供するディーラーオプションのひとつです。オンデマンド印刷機で感圧紙を安定して印刷できるよう、印刷機に個別のソリューションを組み入れ、そのお客さまの専用機として提供しています。エム・ビー・エスでは、このキット開発に感圧紙メーカーとして関わっていたことから、和歌山印刷所の取り組みをお聞きして導入をお勧めしました。

「印刷品質にはマシンも用紙も重要です。さらには印刷会社のスキルやノウハウも関係します。そのあたりも含めてエム・ビー・エスさんに相談しながら導入を進めていけたので、とても助かりました」

2019年11月、感圧紙安定走行キットを搭載した富士ゼロックスの「Versant™3100Press」が和歌山印刷所に導入され、1冊からの名入れ伝票印刷ニーズに対応する準備が整いました。同社では、通常のオンデマンド業務を行う「FROMワン」のライン構築を進め、2020年4月より通販展開を開始。40番のノンカーボン紙でもシワや斜行などの問題もなく安定した印刷が行われています。

### 伝票から商業印刷まで幅広い業務に活用 ノウハウを蓄積してさらなるチャレンジを

現在、和歌山印刷所では、「Versant™3100Press」をどのように活用されているのでしょうか。出力部部長の津村泰史さんにうかがいました。

「伝票印刷は比較的早く軌道に乗りました。ただ当社は、このマシンで商業印刷も含めて複合的に使う計画があったので調整を行いました」

別のオンデマンド機導入時に苦労した経験があった津村さんは、封筒をはじめ、同社で使用する用紙をすべて富士ゼロックスのショールームへ持参し、担当者立ち会いのもと逐一チェックして検証を繰り返したそうです。現在は、伝票以外の業務も安定した印刷が行われています。



「このマシンは紙のセッティングのコツをつかむといい仕上がりになります」と津村泰史出力部部長



コロナ禍の今、業務中はマスク着用を徹底

「ノウハウ蓄積のためにいろいろチャレンジしたい」とおっしゃる津村さん。導入して1年ほどたった現在、オペレーターは1名。徐々に人数を増やし、将来的には3名で担当する計画とのこと。

「オフセットでは一人前のオペレーターになるには最低5年は必要ですが、オンデマンド印刷機なら1年もかかりません。人材教育の点でも大きなメリットです」(百合川専務) 同社では、小ロットや可変印刷のニーズが今後さらに増えるのは確実との判断から、オンデマンド印刷機の活用を積極的に奨励しています。

### 伝票を自社で一貫生産できる強みを発揮し、 BtoBからBtoCへ進出

デジタル化の進展やペーパーレス化など、印刷会社を取り巻く環境が大きく変化する中、同社の今後の展望について百合川専務にお聞きしました。

「『FROMワン』の事業開始に伴い、同業者に販売代理店になっていただく契約を結びました。伝票ならではの薄紙対応や品質管理などのノウハウがない印刷会社も、当社が印刷から丁合いまでを一貫して行って安価で提供できるので安心して販売できますし、新規顧客獲得のチャンスも広がります」

主に和歌山から大阪を結ぶ南海道エリアを営業圏としている同社ですが、より多くの同業者とタイアップすることでさらなる販路拡大を図る計画で、販売代理店になってくださる印刷会社を募集中です。

「当社は、金融から流通、そして各種メーカーまであらゆる業種の印刷物を制作しています。基本的にBtoBがメインでしたが、『FROMワン』の展開でBtoC領域へも進出できました。伝票通販というニッチな市場で、さらに名入れ伝票印刷1冊のニーズを獲得、拡大して、リーディング・カンパニーを目指していきます」

オンリーワンのビジネスによって自社の価値を高め、さらなる発展に向かって歩みを進める和歌山印刷所。感圧紙安定走行キット搭載の「Versant™3100Press」は、今後、同社の大きな戦力として活躍していくことでしょう。

#### 株式会社和歌山印刷所

本社：和歌山県和歌山市狐島609-9  
wa-in.co.jp

1945年(昭和20年)、県からの要請により、印刷、製本、製紙会社などが集結し、合併会社としてスタート。以後、地域に根差した総合印刷会社として、商業印刷から伝票類まで幅広い業務を請け負っている。



現在、世界中で新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっています。感染症に罹患された皆様、不自由な暮らしを強いられる皆様にご心よりお見舞い申し上げます。また、世界各地で治療や感染予防に力を注がれている皆様にご敬意を表するとともに、深い感謝を申し上げます。弊社は、感染拡大の防止とお客さま・従業員の安全確保に配慮しながら事業継続を図ってまいります。今後ともなにとぞ宜しくお願い申し上げます。